

令和5年度 あやせババール園 事業計画書

1. 施設理念

一人ひとりの個性を尊重し、「遊び」を中心とした多様で豊富な生活経験を通じて「たくましく生き抜く力の基礎を育む」保育に努め、地域社会から信頼される園運営をめざし、心身ともに健やかな子どもを育てます。

2. 施設方針・テーマ

- ・子ども一人ひとりを大切にし、子どもの発達と個性を認め、自信をもって自分らしく意欲的に遊びや生活が築けるように援助します。
- ・家庭や地域の様々な社会資源と連携を図りながら、地域の子育て中の保護者、子ども、そして私たちが共に成長する喜びを共有できるよう子育て支援に努めます。
- ・コンプライアンスの徹底に努め、子どもの人権、健康、安全、安心を守る環境づくりを行います。

3. 実施事業

- (1) 保育所 利用定員 90名
0歳児→6名、 1歳児→10名、 2歳児→12名
3歳児→20名、 4歳児→21名、 5歳児→21名

(2) 特別保育事業

- 発達支援児保育事業
- 延長保育事業
- 年末保育事業
- パートナー保育事業
- 一時預かり事業 定員10名

4. 重点目標

家庭や地域と連携し、こころもからだも健やかで、豊かな感性を持ち、自分も周りの人も大切に育てる子どもを育てます。

○基本的な生活習慣（健やかに伸び伸びと育つ）

- ・のびのびとからだを動かし、元気いっぱい遊びます。
- ・食への興味、関心を育みます。
- ・見通しを持って自ら行動する力を育みます。

○他者とのかかわり（身近な人と気持ちが通じ合う）

- ・様々な人たちとの交流を大切にします。
- ・友だちと関わるなかで、互いの思いや考えなどを、共有できる関係を築きます。
- ・人と心を通わせるなかで、豊かな言葉や表現を身につけます。

- ・遊びや生活を通して、社会生活に必要なルールやマナーを身につけます。

○学びの芽生え（身近なものに関わり感性が育つ）

- ・自然と触れ合う機会をたくさん作ります。
- ・遊びや生活のなかでの「気づき」を大切にします。
- ・数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねていきます。
- ・自分で考えてやってみる経験を通し、自信を持てるようにします。
- ・体験や出会いから、心が揺さぶられる機会を作ります。

（１）人材育成と職場定着

- ① 保育園の方針を明確にし、子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育を行うと共に、保育内容の改善に取り組み、共通理解や協働性を高め、保育の質の向上に努める。

自己評価に基づく課題等を踏まえ、内外研修（キャリアアップ、区主催等）に参加し、保育技術など専門性を高め、一貫性・連続性のある保育教育の実践に努める。また、研修内容を職員会議で他職員にフィードバックする。

特に虐待について、年２回の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、また不適切な保育が行われないよう定期的に研修を行う。

- ② 職員間の連携、情報共有の場（全体会、パート会議、幼児会、乳児会、クラス会等を定期的に実施）を確保し、内容の充実を図る。

保育の実践、行事の進め方など困った時に一人で悩まず、相談しやすく、また協力体制がしっかりできている職員関係を構築する。

コミュニケーションをより円滑にするため、「報告・連絡・相談」の励行や交流会等を行う。

- ③ DX 推進室を設置し、業務効率化を図る。職員の業務軽減と保護者との連絡をより確実に簡易にするため、ICT化（連絡帳、登降園・帳票管理）を継続、充実させていく。アプリ導入３年目になり、

詳細な問題点が出てきているので、全体で、またクラス毎に活用方法を検討していく。

（２）利用者へのサービス提供（顧客満足・質の向上）

- ① 子どもが持っている豊かな感性や主体性・成長しようとする力を育むために、発達や学びの連続性を踏まえて養護と教育を一体化した保育を行う。

- ・基本的な生活習慣の確立・豊かな感性と創造性・規範意識の芽生えを培うことを目指し、体験（英語、コーディネーション運動、もじかず遊び、高齢者との交流、畑づくり、自由に表現できる制作活動等）を通じた人格形成の基礎づくりを行う。

- ・施設交流・地域交流を通して豊かな心・思いやりの心を養う。

- ・課外教室（ECC 英語・ダンス）を希望者に利用していただく。子どもを園に預

けている間に習い事をさせることができる。

・絵本棚を整理し、貸出絵本を充実させる。

② 連絡帳アプリを有効に活用する。

登降園管理、連絡帳、園からのお知らせ、個別連絡

・感染症対策により園行事に保護者が参加できない場合は、動画配信等を行う。

③ 令和4年度後期より開始した、「手ぶら登園」(オムツのサブスク)サービスを継続する。

(3) リスク対策(感染・安全・災害等)

① 感染症防止対策を徹底的の実施し、感染症を施設内に侵入させないために最大限の努力を行う。また、万一感染症が施設内に入った時に、慌てず迅速に最良の対応ができるよう、事例検証や職員研修、事前準備をする。

安全及び衛生管理(温度・室温・換気・採光・感染症等)・保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。

② 個人情報保護法、児童虐待防止法、児童福祉法等コンプライアンスを徹底する。研修を行い、職員会議でガイドラインを読み合わせする。

③ 防災・消火訓練を月1回以上、引き渡し・防犯・水害・通信訓練を年1回以上、具体的な災害状況を想定し、危機感を持って実施する。

子どもたちの心身の健康を最優先にした行動を心がけ、災害時だけでなくアフターケアに十分配慮する。

(4) 施設・設備整備

① 開設9年目を迎え、修繕の必要箇所が出てきている。

幼児クラスの床、幼児トイレ壁紙、排煙窓、保育室扉

② 昨年度保育士による虐待事故が社会問題となった。本園では不適切な保育はしていないことの証明とするため、またケガ等事故発生時の原因究明の手段とする等、職員を守るために各保育室に見守りカメラを設置する。(行政より設置の指導あり、補助金が給付になる予定)

③ 園内外の管理(園庭や施設周りの整備・保育室環境の見直し・共有スペース倉庫やホール)をする。危険箇所や修繕の必要に気づいたら、直ちに報告することを定着させる。

また遊具・玩具等の点検は毎日実施し、正確に記録する。

(5) 地域連携・社会貢献

① 本園の活動の様子や、パートナー保育(育児相談、園庭開放、園行事へのお誘い)の案内等を、ホームページ等を活用し地域の方々に伝えていく。

② 学生の職場体験や教育実習を受入れ、保育の仕事への興味関心を持ってもらい、将来の保育従事者の育成に協力する。

- ③ ECC 英語教室の小学生クラスを開室し、卒園児だけでなく周辺の対象小学生にも利用してもらい、地域にひらかれた保育所となるための事業の一端とする。

(6) 経営管理

- ① 入所児童を確保する。
- ・途中入所幼児獲得のためにも、近隣の保育ママや幼児クラスのない小規模保育所、認証保育所などと交流（園庭開放、行事へのお誘い等）を持つ。
 - ・施設理念、施設方針・テーマを大切にしながら、3歳児から導入している「COT（運動カリキュラム）」や4、5歳児の「もじかずランド」、2歳児クラス以上のECC英語教育を継続する。
 - ・ホームページを充実させ、本園の保育の魅力を内外へアピールする。
園行事、日々の保育の様子など
 - ・一時預かり保育利用児童の確保を図る。
ホームページ掲載、案内チラシを子育てサロンや住区センターに置いてもらう。
- ② 職員一人ひとりがコスト意識を持って行動する。
- ・使っていない照明やエアコンを切る。尚、エアコンは起動時に多くの電力を消費するので、短い時間なら消さない。
 - ・エアコンが効率良く作動するように、扇風機と上手く併用し、細めにフィルター等の清掃を行う。
 - ・コピー使用時は、可能な場合は裏紙を利用する。
 - ・教材等の在庫管理をしっかり行い、不要に購入しないようにする。
 - ・整備や修繕、物品購入等、業者に発注する際は見積書をよくみて、改善できる事項は相談し、適格な価格で依頼する。
- ③ 運営会議の充実を図り、職員会議・パート会議にて全職員の共通理解のもと経営管理をする。

5. 新規事業

なし

6. その他

なし